

# 派遣報告書

平成25年 8月12日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 大津 昌克



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 派遣期間 平成25年 8月 5日(月) から平成25年 8月 7日(水) まで

2 派遣先 (1) 長崎市 8/5(月) 15:20~16:50  
(2) 佐世保市 8/6(火) 13:00~14:30  
(3) 武雄市 8/7(水) 11:00~12:30

3 視察(調査) 議員名 大津 昌克、丸田 克孝、渡邊 法子

4 面会者 (1) 長崎市議会事務局 局長 中路 崇弘 氏  
長崎市総務局総務部行政体制整備室長 笈木 和幸 氏  
(2) 佐世保市議会事務局議会運営課議事調査係 濱村 直弥 氏  
佐世保市観光物産振興局総括マネージャー 川口 裕樹 氏  
(3) 武雄市教育委員会文化・学習課 中野 優 氏

5 派遣目的 (1) 行政改革について  
(2) させば戦略産品について(物産振興)  
(3) 武雄市図書館について

6 視察の経過及び感想  
別紙: 会派くらし「行政視察報告書」参照

7 添付書類  
(1) 各地研修資料表紙(写)  
(2) 面会者名刺(写)

要した経費: 3 人合計 217,590円

# 派遣報告書

平成25年 8月12日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会  
(代表) 議員 段塚 廣文



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

## 記

- 1 派遣期間 平成25年 8月 5日 (月) から平成25年 8月 7日 (水) まで
- 2 派遣先 (1) 長崎市 8/5 (月) 15:20~16:50  
(2) 佐世保市 8/6 (火) 13:00~14:30  
(3) 武雄市 8/7 (水) 11:00~12:30

---

- 3 視察(調査) 議員名 段塚 廣文

---

- 4 面会者 (1) 長崎市議会事務局 局長 中路 崇弘 氏  
長崎市総務局総務部行政体制整備室長 笈木 和幸 氏  
(2) 佐世保市議会事務局議会運営課議事調査係 濱村 直弥 氏  
佐世保市観光物産振興局総括マネージャー 川口 裕樹 氏  
(3) 武雄市教育委員会文化・学習課 中野 優 氏

---

- 5 派遣目的 (1) 行政改革について  
(2) させぼ戦略産品について (物産振興)  
(3) 武雄市図書館について

---

- 6 視察の経過及び感想  
別紙: 会派くらよし「行政視察報告書」参照

---

- 7 添付書類  
(1) 各地研修資料表紙 (写)  
(2) 面会者名刺 (写)

要した経費: 1 人合計 72,530円

# 会派くらし「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

日 時 平成25年8月5日(月)～7日(木)

議 員 大津 昌克、丸田 克孝  
渡邊 法子、段塚 廣文

## 1. 視察・調査の経過及び感想について

### (1) 長崎市 8/5(月) 15:20～16:50 「行政改革について」

長崎市では、昭和58年11月に現在の行政改革大綱の基礎となる「行財政運営の健全化に関する具体化方策について」を策定し、事務事業の効率化、財政運営の適正化などに取り組んできています。

その後、社会情勢の変化に対応した、新たな改革に着手する必要性に迫られ、平成8年4月に市民の代表からなる「行政改革審議会」を設置し、行政内部での検討のみならず、市民の立場からの貴重な意見を取り入れながら、同年10月に「長崎市行政改革大綱」を策定しています。

その中では「効率的行政運営」、「効果的行政運営」及び「合理的行政運営」の3つの基本方針を掲げ行政運営全般にわたる抜本的な改革を推進しています。



さらに、平成13年3月には本格的な地方分権時代の到来を受け、再度計画の見直しを行い、基本方針を「パートナーシップ型行政の確立」、「市民の視点に立った地域経営の推進」及び「開かれた行政運営と透明性の向上」とし、分権時代に的確に対応する行政運営システムの構築に向けた改革を推進し、一定の成果を挙げています。

このように長崎市では、行財政改革（以下「行革」）の先進地であり、特に職員の定員管理、人件費の削減については、目標値を達成しかなりの効果をあげています。長崎市に限らず、自主財源が低く、地方交付税への依存度が高い地方自治体は数多くあります。私たち倉吉市もまさにその対象であり、今後の交付税減額や、税収の減収は必至です。そこで今回、長崎市の行財政改革を学び、倉吉市における同改革の一助とするべく視察研修にいたしました。

長崎市の第4次行政改革大綱では、平成17年から22年の6年間の重点目標は、(1)定員管理、(2)人件費の削減、(3)経済効果、(4)財政の健全性の確保の4つからなります。特に、(1)の目標値は、平成17年度当初の職員数4,487人から600人(約13.4%)削減を掲げました。また(2)では、平成16年度実績の人件費約370億円から30億円(約8.1%)の削減を目指しています。(3)ではそれらを踏まえ、計画期間中の累計で200億円以上の経済効果の達成を目指しています。



結果は、(1)600人減に対し723人の減、達成率120%(2)約30億円削減に対し約66.8億円、達成率222.7%(3)200億円以上の経済効果に対し約218.8億円、達成率107.7%いずれも結果を出しています。

まず一般職に対しては退職等の自然減に対して採用の減数は限界があります。したがって、現業、臨時職員について、アウトソーシングにかなり切り替えています。これは「市民との協働」や「新しい公共」といわれる手法の一つといえます。また、公の施設の指定管理等も積極的に取り入れています。それにしても数字的にはかなりの減少に驚きました。

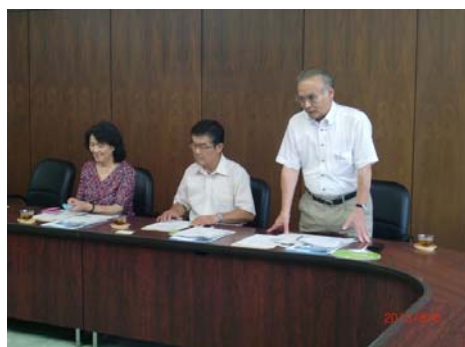
まず一般職に対しては退職等の自然減に対して採用の減数は限界があります。したがって、現業、臨時職員について、アウトソーシングに

かなり切り替えています。これは「市民との協働」や「新しい公共」といわれる手法の一つといえます。また、公の施設の指定管理等も積極的に取り入れています。それにしても数字的にはかなりの減少に驚きました。

今後とも計画に従って行革を推進していくとのことですが、行革により行政サービスの低下を招いてはいけないということで、量の減と質の向上に向けて一層の努力をすることとした。倉吉市のほぼ10倍規模の長崎市ですが、見習うべき点は大いにあると思いました。



(2) 佐世保市 8/6(火) 13:00~14:30 「させぼ戦略産品(物産振興)について」



まずはじめに佐世保市は本年4月1日に市制施行111周年を迎えられたそうです。この「1」が3つ並ぶ縁起のよい年を「市政発展のさらなるステップの年」と位置づけ、『1W4K』をキーワードとする成長戦略を一層推進する年にしたいと考えているようです。この『1W4K』とは、「W」日本本土の西(WEST)

の端、「K」企業(Kigyou)立地の推進、「K」観光(Kankou)振興、「K」基地(kichi)政策、「K」国際(kokusai)戦略のことです。

特に観光物産振興局物産振興グループでは、物産の振興および販路拡大に関すること、物産品の広報宣伝に関すること、ふるさと特産品振興事業に関すること、水産物の消費拡大に関すること、伝統的工芸品の振興に関すること、福岡アンテナショップの推進に関することなどを主な所管事務としています。

今回はこの「させぼ戦略産品」について視察研修をするものです。この視点は、意外と地元の資源や特産に気が付かず、宝の持ちぐされとなっている物も少なくないということです。特に灯台下暗し減少や、消極的行動の背景は、倉



吉市にとってもよくある現象です。地元の物に愛着と誇りを持ち、外部に向ってもっと宣伝していく必要がありますが、それを行政がやるというのはどういうことでしょうか。手法を間違えれば、ただ予算を消化しただけに終わる例もたくさんあります。ということで、「佐世保市のよかもん、うまかもん」を感じてみたいと思います。

この「させぼ戦略産品」とは、佐世保市が誇れる物産品の中で、他産物との競争的な視点で、産地と行政が一体となって、重点的にマーケティングを実施する産品をいいます。一定の基準により現在、「世知原茶」「みかわち焼」「九十九かき」「九十九いりこ」「九十九とらふぐ」の5品を定めています。なかでもとらふぐの養殖は全国1位を誇るらしいのですが、加工技術の高い下関に出荷するため「下関とらふぐ」のブランドに押されているのが現状のようです。その他の産品についても佐世保特有の産品ですが、宣伝等が不足しているのが現状です。

そこで行政が、テレビCMの放映や宣伝資材の政策、特産品カタログの作成をし特産品のプロモーションをしています。佐世保市民向けに贈り物カタログを作成し住民にも特産品を周知させたところ、とても好評であったようです。ただし、行政はきっかけ作りの黒子に徹し、民間を育成し自立を促進するのだそうです。確かにそうでなければ継続性が期待できないでしょう。

やはり地元の特産品を自分たちが口コミするというのが一番の方法でしょう。私たち倉吉市も地元を見直し、地元の良さをアピールすることは重要です。地域振興とともに、各々の市民の力で少しずつでも動けば大きな結果につながると感じました。



(3) 武雄市 8/7(水) 11:00~12:30 「武雄市図書館について」

武雄市といえばあのカリスマ市長により、数々の政策が有名です。賛否両論あるようですが、今回は図書館をツタヤ書店が管理するという指定管理について研修してきました。



武雄市では毎日のように行政視察が絶えないようで、1日に相当の視察団が訪れており、時間をずらして数グループに分けて対応しています。私たちは30人弱のグループで午前の2回目でした。

議長挨拶のあと市長が直々にレクチャーを行ないます。力強い言葉とウイット感ある表現は、聴衆をとりこにします。全国でも図書館の指定管理はありますが、図書の販売や、スターバックスコーヒーを入れるなどアイデア

満載です。これらは今までに考えられなかったことで、いわゆる前例主義からいうとナンセンスなことですが、最終的には議会の承認を経て決定したことです。

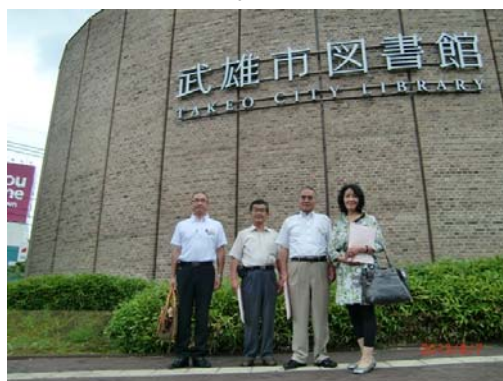
実際図書館を訪れると平日にも関わらず駐車場はほぼ満車でした。中に入ると、コーヒーのよい香りがし、スターバックスに行列ができています。販売用の本はセルフで買うことができ、貸し出し書籍も含めTポイントの対象です。なんととっても居心地の良い空間が演出されています。天井の高さと個室的な部屋割りは、ある種のアトラクション的というか、例えば本棚が巨大迷路のようになっているのです。これもツタヤの経験と戦略が活きているといえます。



また指定管理料はゼロであり、さらにはツタヤから年間600万円が市に支払われています。これを一般会計に入れることは容易ですが、武雄市は全部図書費に使っているというのです。この収入は本の販売や、CD・DVDのレンタルやスターバックス等の営業収益であり、約40人の雇用も増えたそうです。今年の4月に指定管理としてリニューアルオープンして以来、7月末での来館者数は344,508人となり、過去の年間最大来館者数294,685人をたった4ヶ月で越えてしまいました。さらに、図書貸出数も前年同期間対比186%と過去最高ペースを記録しています。



いずれにしても賛否両論で、批判の声も大きいとのことですが、これだけの実績を見せられたら納得せざるを得ません。何事も初めて行なうことは批判がつきものですが、市民にとって良いかどうかが問題でしょう。アンケートでは市民は概ね満足をしているとといいます。新しい時代の新しいやり方は、地方分権時代の勇氣あるチャレンジだと思います。カリスマ市長が行き過ぎれば議会が止めればよいのです。それが二元代表制の本来の姿です。地方自治の活性化のためにも役立っています。たいへん刺激になり、有意義な研修となりました。



## 2. 視察・調査を終えて

今年の九州もたいへんな酷暑の中、新しい自治のあり方を発見するために研修に出向きました。やはり実際にこの目で見て、直接聞くことは重要かつ意義深いということを再認識しました。

これは日頃の議員活動においてもいえることですが、他人から又聞きしたり、巷の噂話をそのまま鵜呑みにしたり、自分流に解釈してしまうことはたいへん危険です。真実を知り、事例に至った背景などを調査し、その根本を研究しなければいけません。

今後さらに進むであろう地方分権改革の中、私たちのふるさと「倉吉市」が次世代を担う子どもたちにとって「愛着」と「誇り」を持てるまちであり続けるには、今私たち大人が頑張らなければいけません。そのためには、安易な経済的措置に頼るだけでなく、真の地元の良さを全住民で共有し、全国発信していくことが課題と思います。私たち倉吉市も特色ある行政運営で、全国からひっきりなしに視察を受け入れることができるようなまちづくりに向かってよいのではないのでしょうか。

今回の学びがさらなる地域振興、地域づくりに向けて倉吉市政に反映できるよう努力をしてまいりたいと思います。視察を受け入れていただいた各自治体のみなさまにはたいへん感謝を申し上げます。ありがとうございました。

**【コラム】** 武雄市図書館指定管理者は、「カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社」通称「CCC」といいます。武雄市長があるテレビ番組〔代官山蔦屋書店OPEN（2011冬）〕を見て「市民のための図書館」のイメージと完全に一致、その後、市長がCCC社長とたまたま路上で会い、いきなり「武雄市の図書館をお願いします」と頼み、即その場で「OK」となったそうです。まさに必然ともいえるエピソードです。